

# 連盟ニュース

## NO.454

### 2015 4月号 (平成27年)

講座	2015	IAA	地区	便利帳	コラム	コラム	コラム	美術館	企画
36	33	25	23	21	18	16	14	11	1
前期公開講座のご案内	年間予定	IAA執行委員会報告 第5回IAAアジア太平洋地域会議報告 池田良一	地区便り四国 地区文化への想い 河崎 良行 地区便り信越 祭とアート 倉島 光	工房探訪 阿波和紙伝統産業会館 工藤多美子	ニューヨークとアートと僕③ 青い目の浦島太郎 高田 壽八郎	中国広東省韓山師範学院大学での木のリトグラフの授業 澤岡 泰子	感動する心 保利 耕輔	田中一村記念美術館 久保井 博彦	入江子氏に聞く 聞き手・福島瑞穂

### 企画記事

### インタビュー

# 入江子氏に聞く — 今が一番絵が分かる —

〔聞き手〕福島 瑞穂



2015年1月22日 於 東京都阿佐ヶ谷 入江子シルクロード記念館

「今が一番絵が分かる」  
「今が一番幸せ」  
今年99歳になる洋画家・入江子氏が口癖のように繰り返す科白である。

林武に50年にも亘って師事し、独立展・女流画家協会展などに出品してきた入江氏。今なお大作に挑み続けるその想いと気概を福島瑞穂氏が聞く、1万字の証言。

*K. Inoue*

**福島** 先生は1916年5月15日に韓国の大邱でお生まれになりました。当時のことをお話ください。

**入江** はい、私は1916年(大正5年)朝鮮の大邱に生まれました。父は山口県萩市の出身で、生家は毛利藩士で、維新後は海外に出向き貿易商を営んでいました。父は、1922年、私が6歳のとき、4歳と1歳の妹二人、28歳で未亡人になる母を残して他界しましたが、残された家族4人が生涯にわたって生活していきけるだけの財を父はなしていましたので、生活の心配はありませんでした。

**福島** 早くにお父上を亡くされた先生が、その後、画家を志して行く過程をお聞かせください。

**入江** 私は物心つく頃から絵を描くことが非常に好きで、小学1年生の頃は毎日学校が終わると校庭でスケッチをしていました。小学6年生のとき、私が描いた静物画が昭和の御大典で天皇陛下に奉納されました。12歳で大邱高等女学校に進学しました。5年生のとき、第12回朝鮮美術展に「裏通り」写真次頁という作品が入選しました。この展覧会は、当時の日本という、朝鮮・満州における帝展(1907年文部省美術展覧会「文展」、戦前まで日本においてもっとも注目を集めた美術展で唯一の官展の公募展でした。この「裏通り」という作品がフランス総領事ドペール氏の眼にとまり、朝鮮の民家の情景が非常によく描けているということで買い上げられ、ドペール氏の帰国に

際し、一緒にフランス留学という誘いがありました。当時、日本は準戦時下にあつたので、日本の

憲兵にそのことを相談に行つたところ、是非フランスへ留学するように熱心に勧められました。母は娘が女スパイにされるのではないかと心配したため、留学をお断りしました。そして3月(16歳)女学校を卒業し、17歳で単身家族と離れ、女子美術専門学校師範学科西洋画部に入学するため、生まれて初めて日本の地を踏みました。

**福島** 女子美に入学されたときに、教えを受けておられた先生のお話を聞かせてください。

**入江** 女子美では、藤田嗣治先生に絵を見ていただきました。先生は「あー、お上手ですね。」と言うようなご批評をしておられました。

岡田三郎助先生のご指導も受けました。和服姿で巾着の小さい袋を提げて来られていました。着衣のモデルを使って描いたとき、生徒の絵を3つのグループに分けて、1列目のグループは「これはいい絵です」、2列目は「これは着衣の中に体が半分しか入っていません」、3列目には「全くだめ、着衣の中に体が入っていません」といった具合でした。

他に、外山卯三郎といった美術評論家として既にアメリカで有名な先生でしたが、和服姿で白足袋に草履というスタイルで抽象画について話をされていました。とても素敵な方で、生徒の憧れの的でしたが、途中でアメリカに帰られました。アメリカで一世を風靡されていた先生と聞いています。福沢一郎先生も、生徒に人気のある先生でした。

**福島** その頃の日本はまだ戦争に入っていないでしたか。

**入江** 1936年11月、私が19歳のときでした。二・二六事件に出会い、銃声を聞きながら登校したことが強く印象に残っています。

女子美を卒業して丸善本社にシヨウウィンドーのデザイナーとして就職しました。そのときの私の上司だった平野さんという方が、独立展へ出品しているなら、独立の野口弥太郎先生か林武先生が丸善に関わっておられるので、指導を受けてはどうかと言われました。それで林武先生のお家に入りするようにしました。林家の奥様のお手伝いやアトリエでの雑用を手伝いながら絵の指導を受けることになりました。

昭和16年(1941年)25歳のとき、太平洋戦争でやがて東京空襲が激しくなつたため、朝鮮の大邱の家族のところへ帰りました。そして大邱で教員になつたのですが、軍需工場へ生徒を連れて行き、その監督をさせられるという毎日でした。

昭和20年(1945年)29歳で終戦を迎え、韓国に家を残して開船で日本に帰国、博多に上陸しました。萩へ帰り、家族の住む家を確保するために島根県の石見益田で美術の教員になりました。

人を引き付ける絵を描きなさい 《林武》

**福島** その後、また、上京されて林先生の家

出入りされて指導を受けられるのですね。林先生のご指導について具体的に聞きたいのですが。

**入江** 林先生のご指導は色や形を具体的に注意されることはあまり無かったと思います。大抵は私が絵を先生に見せて、いい絵を描いたとき、先生はともいってお顔をなさいますし、気に入らない絵のときは苦い顔をされますので、私は先生の顔を見るだけでおっしゃりたいことは分りました。先生のアトリエの壁には、先生の字で大きく「聖潔」と書かれていました。

「人を引き付ける絵を描きなさい、それには描いては消し描いては消し、「建設・破壊」を何回も繰り返して描き上げていきなさい。」と言われました。先生の描き方も一度描き上げたものを一瞬にして全部消してしま、また最初から描いていくという、納得がいくまで繰り返し描いては消すということの積み重ねで描いておられました。私はその先生の絵を描く姿勢に感動し、絵の為には何でもするという先生の精神を貫くという姿を見て育ちましたから、一刻たりとも絵のことを忘れません。どんな絵でも、私は死に物狂いで描きます。絵には魂が入らないとだめです。林先生からは、精神面の重要性ばかり言われました、具体的なことといえば、平面の中における空間と距離感(奥行き)が描けているかどうかということ、いつも注意を受けていました。

**福島** 私が高校生るとき、林先生の『美に生きる』という単行本が講談社から出版され、ベストセラーになったと思います。林先生が大原美術館に講演に来られるというので、尾道から倉敷まで美術部の男子十数人と一緒に行きました。「筆を持った右手の先は宇宙

入江一子初期作品

「執念の画家」と呼ばれた林武を思わせる力強い筆致が窺える。特に、左の「魚」は、「清水の舞台から飛び降りた気持ちで新鮮な絵を描け」と林武に言われ描いたもので、「今までの作品から余分なものを削ぎ落とし、一歩抜け出した」「出世作」として「一段階登った」感じだという。《色彩自在 シルクロードを描きつづけて》入江一子 三五館 1996年、33~40頁



「魚」  
F30号  
キャンバス、油彩  
1953年  
青梅市立美術館蔵  
1953年独立賞



「裏通り」  
キャンバス、油彩  
1933年  
第12回朝鮮美術展入選

※現在、作品の所在が不明のため、  
現存するのは、このモノクロ写真のみ。



1970年頃 【左】林武・幹子夫妻 【右】入江氏(54歳頃)



インタビューを行った入江一子シルクロード記念館のラウンジにも所狭しと作品が展示されている。中央から右側は林武の作品。中央下段の犬を抱いたドローイングが、次頁本文で触られている作品。



左の一室に飾られている林武のデッサン(次頁本文参照)



「敦煌飛天」  
F200号  
キャンバス、油彩  
1979年

を指し左手の指先は地球の中心に向かっている「みたいな内容でしたが、ひどく感動して聴きました。その頃の林先生の言葉はご神託のようにありがたく聞えました。奥谷博先生も芸大時代、教室で描かれた女性の胸像の長い首に林先生がチューブのままをギュッとしぼり出し、首にぬりつけられたウルトラマリンの絵具(もう真っ黒い色に変色していましたが)をそのままに残しておられました。

**入江** はい、先生からのお世話で、初めての個展を大阪のカワシミ画廊ですることになったときです。奥様から注意を受けて、今も私が守っていることです。「画商に蔵を建てさせるような気持ちでいなさい。絶対に個人売りをしてはいけません。」と言われました。林先生の奥様は、いつも「林百まで」とおっしゃっていましたが、78歳で亡くなられたのは残念でした。最近、林先生の芸術至上主義が私の体の中に入ってきているような気がします。私が百に近づいた今、絵が段々とわかってきました。色も鮮やかになり絵に力が出てきたと思います。

林先生が病院で息を引き取られるとき、お側に居たのは私一人でした。最後まで先生にお仕えできたことは満足でしたが、悲しみは尽きません。

**福島** 林先生の奥様・幹子さまは絵描きの間でも大変な賢夫人と言われていましたが、幹子夫人にも入江先生は大変信頼されておられました。先程から気になっているのですが、この壁に掛かっている額の中にある手紙は林先生のお手紙ですか。読んでいいですか。

(そのお手紙は当時の審査風景が書かれており、またご夫妻の入江先生に対する愛情がよく窺えるものでしたので、入江先生のご承諾を頂いて、ここに載せることにしました。)

**冠省** 昨日は留守中においての由、君の作品が惜しくも一点になってしまった。本年は五十何名かの大多数の会員が審査にたずさわった為、各自の主張は絶対に避けられた。凡て挙手の多数決でどんどん決まってしまった。

中には、要領よく主張する者もあり、それ故に却って数が減る場合もあり、又増す場合もある。君も一点という声もあり、僕も一寸言ったが、再決するに至らなかった。

又、運という点で、君の絵は夕方近くなり、スピードで決まった時で、又ある絵が落ちると、それに反動的に次の絵も落ちるといふ、だんだん厳選になって行ったなと思つた程で、運が悪いといえは悪い。それに僕が非ボスの性格で公正主義の性癖があるのも損かもしれない。

来年は二点は確実と思う。あの分で勉強すれば、どんな場合でも、乗り切れると思います。まだ人の手助けや運不運では実力が無い事というより他なく、一年や二年の差より一生の問題の方が、どんなに大切だかと思うと、この運命をよりよく生かして下さい。

具体的にはお出での時よく話しますが、第一番は三点(二人少女、髪すき、十二号位の少女像)が入っており、スポーツ女と僕が一点直して追加した分も共に落選、結局二人少女一点になり、若し君が中途で止めて置く手腕が判れば、君が近々良い絵が描けるようになるのです。

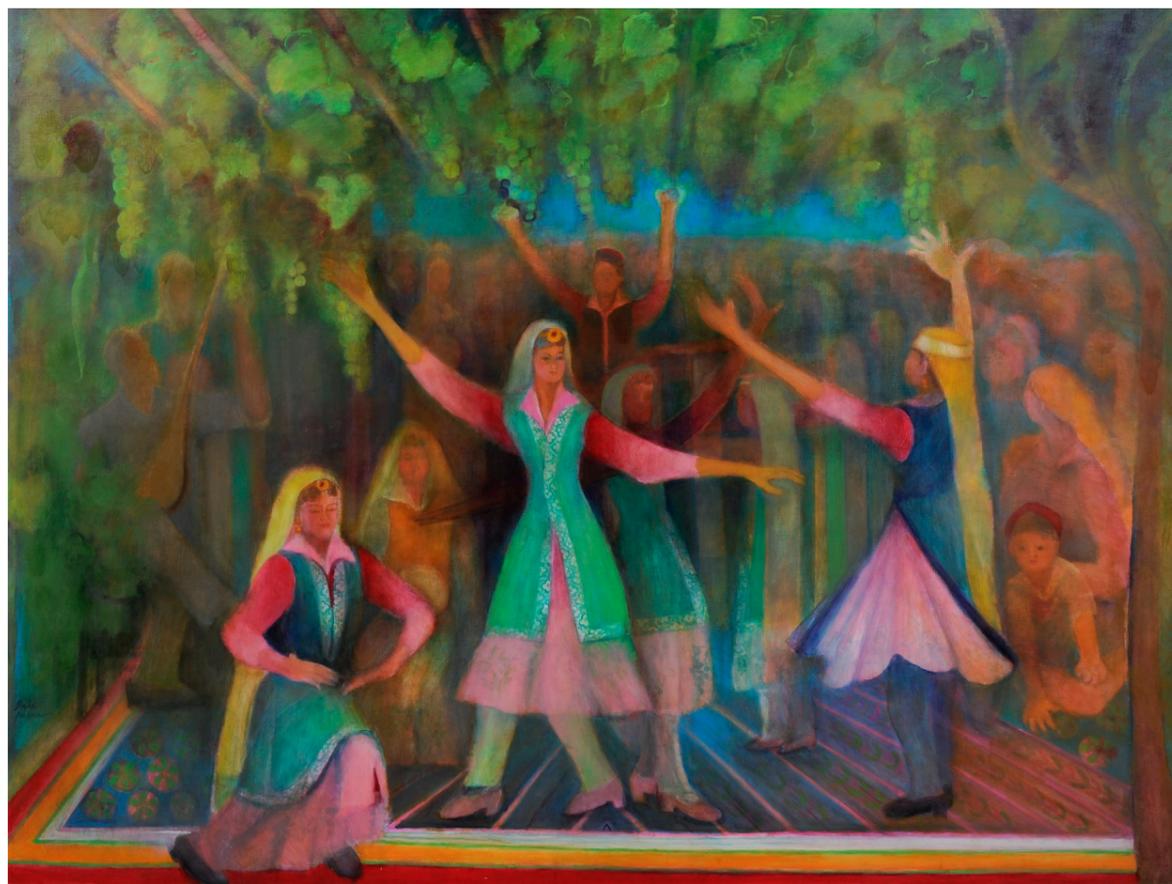
入江一子様  
林 武

非常に私、残念と思ひましたが、全く——今後のあなたの絵を楽しむに、淋しさいくらか消されつつあります。

林 幹子  
(原文ママ)



「四姑娘山の青いケシ」  
F200号  
キャンバス、油彩  
1992年



「トルファン祭りの日」  
F200号  
キャンバス、油彩  
1981年

### 色彩に心奪われて

福島 絵に話を戻します。先生は『色彩自在』

(三五館 1996年)という本を出版されています。先生の芸術論をお聞かせ下さい。

入江 絵を描く基本として、一般的には、先ず素描を基にして絵を描きますが、私は素描することより物を描写するとき、描く対象を目にしたとき、色彩の占める領域の割合が圧倒的に大きいと思います。先ず色彩に心を奪われ、描く意欲が私の中に起こることではないでしょうか。しかし、素描・構図がうまくいかな

福島 その時代のことを知る人も段々居なくなり、非常に興味あるお話ですが、詳しいことは別の機会に伺いたいと思います。

入江 三岸節子先生は独立を知られ、1946年、森田元子先生を誘って女流画家協会を創立されました。その時のことをよく覚えています。三岸先生の協会創立のときの挨拶は、男性中心な美術界に革命を起こすという内容を泣きながら講演されました。

福島 そうですね。

入江 回展の折、5人目の女性会員になられています。この時代、やはり独立の出品者であった三岸節子先生は、「独立では女性には会員にしない」という不文律に業をいやし、独立を早々にやめられていますね。そして1946年、女流画家協会を創立されたわけですが、この第1回展から創立会員として入江先生は参加されています。三岸節子先生の独立出品はいつからかご存知ですか。

### 独立美術協会と女流画家協会

福島 先生は、連盟ニュースでインタビューを受けられた、初めての女性油絵の絵描きだと思えますが、独立美術協会では第25

福島 お手紙と一緒に簡単に描かれたデッサン写真が飾られています。非常に素晴らしい線と形ですね。あれは林先生のデッサンですか。

入江 あの絵はフジサンケイグループの創立者・鹿内信隆のお嬢さんで舞台女優になられた菊ひろ子さんを林先生のアトリエで描かれたものです。何枚もデッサンをされたうちの1枚で、林先生が気に入らなかったのか、突然「これ上げる」と言っただけだったものです。菊さんの楽屋へは時々林家からの差し入れに行っていました。

福島 なんと言う劇団におられたのですか。

入江 忘れました。

福島 ついでにあの隣にある犬を抱いた色紙は誰の絵ですか。

入江 林先生の家になくさん子犬が生まれました。子犬をもらってくださった方へのお礼に、先生が犬を描いて色紙を子犬につけて差し上げられました。私も1匹頂きました。そのとき、子犬を抱えている私の姿を描いてくださったものです。このとき、犬をもらった男性画家の一人が帰る途中で、犬を捨てて色紙だけ持ち帰りました。後日、犬が道を覚えていて林家に戻ったため、捨てたことがばれて、出入り禁止になりました。

1916年 山口県に生まれる。多感な少女時代を韓国・大邱で過ごす。  
 1928年 小学6年生のときに描いた静物画が昭和の御大典で天皇に奉納されるなど早くから才覚を顕す。  
 1933年 女学校5年のとき朝鮮美術展の入選作《裏通り》(3頁掲載)がフランス総領事ドペールに買い上げられる。  
 1938年 女子美術専門学校師範学科西洋画部(現 女子美術大学)卒業。第8回独立美術協会展入選《沼地風景》。洋画家・林武画伯に師事。  
 1947年 女流画家協会創立会員。  
 1953年 女流画家協会賞 第21回独立美術協会展独立賞。  
 1956年 女流画家協会賞。  
 1957年 独立美術協会会員(第25回独立美術協会展)。  
 1958年 個展(以後毎年、大阪・名古屋・山口・下関・広島・東京・神奈川ほか)。  
 1960年 日米女流交歓展(リバーサイド美術館/ニューヨーク)出品。  
 1962年 現代美術展出品(66年)。  
 1963年 安井賞候補展出品(66年)。  
 1964年 国際女流美術家クラブ展(ハリ近代美術館)出品。  
 1969年 東南アジア・ヨーロッパ・シルクロード写生旅行(以来30数カ国を訪問)。  
 1974年 日米女流画家合同展(パシフィックアジア美術館/カリフォルニア州バサティナ)出品。  
 1980年 現代女流美術展(上野の森美術館)現代女流画家展(高島屋)出品(99年)。  
 1981年 作品集「シルクロードと花」出版記念展(銀座・東京セントラル美術館)。  
 1985年 作品集「シルクロードと花」出版記念展(銀座・東京セントラル美術館)。  
 1990年 作品集「シルクロードと花」出版記念展(銀座・東京セントラル美術館)。  
 1990年 作品集「シルクロードと花」出版記念展(銀座・東京セントラル美術館)。

1996年 「色彩自在/シルクロードを描きつづけて」出版記念展(渋谷・東急本店)。  
 2000年 入江一子シルクロード記念館(東京・杉並区阿佐ヶ谷)オープン。  
 2006年 日本の女流画家展「セーラムギャラリー/ニューヨーク」出品。  
 2008年 日本の女流画家展「日本ギャラリー/ニューヨーク」出品。  
 2009年 入江一子個展「シルクロード色彩自在」(日本ギャラリー/ニューヨーク)。  
 2012年 ニューヨーク個展凱旋記念展「1月 日本橋三越本店、2月 名古屋三越栄店」。  
 2013年 6月 第67回女流画家協会展《イエメン ルファリハリ砂漠》80号出品(東京都美術館)。  
 10月 第81回独立展《パリガランガン祭り》の目録(200号)出品(国立新美術館)。  
 11月 女子美術大学「女子美術賞」第一回受賞(平成25年度)100周年記念大村文子基金)。  
 2014年 6月 第68回女流画家協会展《ジユド湖で絵を描く》80号出品(東京都美術館)。  
 10月 第82回独立展《神々の楽園(ハリ島)》(200号)出品(国立新美術館)。  
 ●現在 独立美術協会会員、女流画家協会委員、NHK文化センター講師。  
 ●著書 「色彩自在/シルクロードを描きつづけて」(1996年/三五館刊)。  
 ●作品收藏 山口県立美術館/山口県庁/山口放送/青梅市立美術館/女子美術大学/日本航空/葦崎大村美術館/桐生自動車博物館/立川中央病院  
 ●ほかに、個展・グループ展・テレビ出演等多数。  
 【今後の活動予定】  
 2015年 4月4日~5月8日「日韓近代美術家のまなざし」朝鮮」で描く」展(神奈川県立近代美術館・葉山館)出品。



入江一子シルクロード記念館外観

### 入江一子シルクロード記念館

住所：東京都杉並区阿佐谷北2-8-19  
 電話：03-3338-0239  
 開館時間：毎週金・土・日曜日 11~17時  
 休館日：年末年始・8月・9月  
 入館料：500円(中・高校生300円、小学生以下無料)  
 交通：JR阿佐ヶ谷駅下車徒歩6分



インタビュー当日も、上記記念館にて200号のキャンバスに向かっていた。写真は独立展展覧予定の制作途中の作品。



1953年、女流画家協会賞と独立賞を受賞した頃の入江氏(37歳)



1934年に女子美入学、キャンバスに向かう入江氏(17歳頃)



小学1年入学当時の入江氏(6歳)

## 100歳に向けて

**福島** 最後になりましたが、今、98歳の先生が100歳に向けて沢山の展覧会の企画が入っています。そのことについて少しお話下さい。  
**入江** 先ず一番近いところで、神奈川県立近代美術館・葉山館で開催される「日韓近代美術家のまなざし」朝鮮」で描く」展に私の絵が展覧されます。この展覧会は20世紀前半に日韓の美術家達が生み出した作品と交流を見る初の大規模な展覧会です。当時の朝鮮半島に在住した日本人作家にもフォーカスしているところが、今までになかった特徴です。2015年4月4日(土)から5月8日(金)まであります。その後全国6会場を巡回しますの

**入江** はい、私の絵について、「現代式の薄手なものとは違っている。抽象や具象といった様式別のことよりも、そもそも画情の土台が手強く強靱なのである。もつれた現実的混沌の中から燃え上がる画心であり、ロマンであり、幻化の世界である。一般の現代画がともすれば才知に流れ、薄手の映像性に陥り、軽量な感覚世界で話が終わるとき、入江さんの仕事はとびぬけて熱っぽく、重たく、強靱である。そうして、その中に女性特有の繊細とロマンが滲み出るところに特色が出ている」と書いて下さいました。  
**福島** 本当に、入江先生の絵について言い尽くされていると思います。

**福島** この膨大なデッサンを見て、この道一筋に歩まれた先生の生き様に頭が下がります。そしてこの杉並区の先生の住居を「入江一子シルクロード記念館」にするという快挙と申しましょうか、地域文化に貢献されたこと、合わせて、ここまで一人でやり遂げられた情熱を素晴らしいと思います。  
 入江先生の1981年の個展の折、河北倫明先生が先生の絵について長文を寄せられていましたね。

いと、色彩も効果を發揮することはできないということも確かです。  
 私は、満州(中国)の嫩江の赤い夕日に感激し、色感のひとつ強いシルクロードの旅を続けてきたわけです。  
 シルクロードの写生旅行を始めたのは、日本と中国の国交正常化から6年後の1978年に、日中友好美術家訪中団の1人として北京や山西省大同市にある雲崗石窟を見てまわったのがきっかけで、翌年79年には敦煌の石窟の壁画を懐中電灯で照らしながら写生しました。  
 79歳のとき、中国四川省の四姑娘山に咲く青いケシの群生を見たい一心で、馬に20時間揺られ、標高4300メートルに登りました。中国に行く度に、沢山の描きたいモチーフに出会い、約40年間、写生旅行を続けることになりました。  
 日本に帰ると、現地でバステルや水彩で描いたスケッチと、その場の臨場感をアトリエに持ち込みたいため、その当時はまだ大きな録音機を持参しました。そして街のざわめきや人々の話し声を再生しながら、独立の出品作200号のキャンバスにシルクロードの作品を描いてきました。



「イスタンブールの朝焼け」  
M25号  
キャンバス、油彩  
2011年

インタビューを終えて

インタビューの間、98歳になられた先生の頭脳の明晰さに度々驚かされました。耳も眼も、何のご不自由さもありません。脚は、外ではシルバーカーを押して何処までもどンドン歩かれます。

ご自宅の美術館の中に本年予定の女流(100号)と独立(200号)のキャンバスを並べて、すでに制作を始めておられます。

「福島さん、私は今が一番幸せです。」と言われたお言葉に感動しました。先生は、生きている限り前に進むことしか頭にありません。人に頼ることなく、一人で生きてきた女性の強さを感じました。

(ふくしま みずほ)

聞き手：福島 瑞穂

1936年 広島県尾道市に生まれる。59年 女子美術大学芸術学部洋画科卒業。61年 フランス留学(O.ZADKINIに師事、65年帰国)。86年安井賞展佳作賞受賞。89年 広島市現代美術館開館記念展「広島・ヒロシマ・HIROSHIMA」収蔵。98年文化庁芸術家特別在外研修員(フランス、GRUNEWALDの研究)。2002年「DOMANI・明日展」(文化庁他主催)。2003年 女子美術大学大学院客員教授。2009年 文化庁長官表彰。現在 独立美術協会会員、女流画家協会委員、日本美術家連盟委員(本紙編集委員)。



福島 是非見ていただきたいと思っています。その後も100歳に向けて、秋野不矩美術館(2015年10月)、日本橋三越本店での個展(2016年6月)、上野の森美術館(2017年1月)と個展の企画が続いています。どうぞお元気でご活躍を祈っています。

了